滋賀県長浜市で園児2人が殺された事件は、「グループ通園」の引率役の母親が容疑者だった。保護者グループによる送迎は地域で助け合い、負担を減らす仕組みだ。鄭永善容疑者(34)は一時期、グループ通園になじめず、自分の娘を個別に通園させていたという。子どもの安全と親の負担のあり方は大きな課題だ。親どうしの信頼関係を土台とするグループ通園について、幼児を持つ親に聞いた。

＝1面参照

武友若奈ちゃんと佐野迅ちゃんの遺影が並べられた通夜会場＝19日午後4時23分、滋賀県長浜市で、高橋正徳撮影

グループ通園 賛否

連帯感生まれた

安全と負担 悩む親

グループ通園は、長浜市の市立幼稚園で数十年間続く慣習だ。4、5歳から入る年中、年長組が、近所でグループを作り、輪番制で保護者1、2人が付き添う。全国的にも少ない仕組みだ。

「保護者の間で連帯感や信頼関係が生まれた」。被害園児が通っていた長浜市立神照幼稚園の年中組の男児(5)を持つ母親は話す。普段から親どうしで連絡を取り合い、保護者が集まった話し合いもしている。毎日子どもを送り迎えしていた年少組の頃より、送迎は週1回と親の負担も少ない。「このまま続けてほしい」と話す。

同園に5歳の娘が通う母親(34)も「負担が減り、子どもが近所の園児と仲良くする機会が増える」と言う。

他地域の保護者からも「親の協調の場が与えられることはいいこと」＝大阪府豊中市の主婦(38)＝という意見があった。

長浜市教委は「共働き家庭が増えた今の時代にそぐわないという批判もあるが、子どもの自立心を養い、地域のつながりを強める大きな役割を果たしてきた」という。

ただ、この仕組みを機能させるには、保護者らの良好な関係が不可欠だ。その関係づくりを不安視する声も多い。

5歳と1歳の子を持つ豊中市の主婦(35)は「お母さんどうしのつきあいは気をつかって大変。なじめない人がいるということもすごく理解できる」。兵庫県宝塚市の主婦(39)は「バス通園なら、気の合わない人がいれば離れていたらすむけれど、グループ通園はそうはいかない」と話す。

気をつかい大変

グループ作りが園側から事実上、義務化されていることへの懸念も目立った。

「園の方から決められちゃうと、抜けるのが難しい。気持ちの面で負担になるかも」＝さいたま市の主婦(34)。「みんなと違った選択ができることも必要」＝大阪府内の主婦(34)。2人の息子を幼稚園に通わせていた兵庫県西宮市の男性会社員(40)は「家庭の事情にあわせながら、親が責任を持ったほうがいいのではないか」。

保育園に6歳と4歳の娘を通わせている広島市安佐南区の主婦(34)は、体調が悪い時など、同じ団地の同級生の母親に送り迎えを頼むことがあるが、「園からグループ通園をしてください、といわれても、大人は子どものようにすぐには打ち解けられない」と言う。

多面的にかかわる環境必要

子育て支援に取り組む大阪府富田林市のNPO法人「ふらっとスペース金剛」代表理事、岡本聡子さんの話　グループ通園は、近くの人みんなで子育てしようという意味で、うまく機能すればいい仕組みだが、親どうしの信頼関係があってこそ。通園の仕方は地域ごとに事情が異なるだろう。大事なのは、子どもを見守る目を親や幼稚園など特定の人だけにしないで、いろんな人が多面的にかかわる環境をつくることだ。何かあったとき気軽に相談できる場所も必要だ。

時間戻るなら戻ってほしい

滋賀県長浜市で起こった2園児殺害事件で亡くなった武友若奈ちゃん(5)と佐野迅(じん)ちゃん(5)の通夜が19日、同市内の斎場で営まれた。園児や保護者らが参列し、悲しみを新たにした。

通夜で迅ちゃん父

通夜には約400人が参列。祭壇には、若奈ちゃんと迅ちゃんの笑顔の遺影が並んで掲げられた。

最後のあいさつで迅ちゃんの父親は、家族で迅ちゃんの好きなカードゲームで遊んだ思い出に触れ、「家族仲良く暮らしていたのに……。時間が戻るものなら戻ってほしい」と言葉を詰まらせた。若奈ちゃんの父親は涙をこらえながら「守ってあげられなくてごめん」と話したという。

孫が若奈ちゃんと同い年という女性(55)は「容疑者は相談できる相手もなく、自分で自分を追い込んでしまったんだろう。でも何の罪もない子どもを殺す理由にはならない」と厳しい表情で語った。

◇

2人が倒れていた現場では19日、市立神照幼稚園PTAの男性役員2人が、幼稚園から持ってきた机4台に白いビニールシートをかけた献花台を設置。小さな子どもを連れた人々が多く訪れ、花束や菓子、ジュースなどを供えた。

大津地検を出る鄭永善容疑者＝19日午後1時3分、滋賀県大津市で、森井英二郎撮影

子どもを守る